

転生して早5年。折角チート無双出来て金も名誉も手に入ったのにマジで出てくる女が自分の事しか考えてない貴族とかじゃかいないので、俺は可愛くて優しくてエロいお願い全部聞いてくれる理想の女を自分で育て上げることにした。

この娘はスーシイ。昨日もはや日課になっている理想の女候補探しの途中、街の隅にある娼婦や浮浪児が集まる場所から拾ってきた。

60

来てる服が浮浪児にしては小綺麗だし、娼婦のように金持ってるような相手(つまり俺)を見ても自分を売り込む事もせず、ただオロオロしていたので何か訳アリと判断して話しかけた。

やる目的の安宿ではなく家に連れ帰り温かいスープと食べ物を与える。

ぐす...

どうやら人頭税が払えず妹が村から追放されるのを見越さず、代わりに自分が追い出されてきたらしい。歳は10歳。長女。アテも無いのでこの街で娼婦のような事が出来ればと思っただけらしい。

正直外見は好みだし話し方から見ても地頭も悪くなさそうだし、話の経緯から処女っぽいし、この娘を俺の理想の女に育て上げて行きたいが他の素質はどうだろうか？

とりあえず今日は疲れてるだろうから休んでいいよと半分物置になってる部屋をあてがう

翌日、スーシイの様子を見に行くとスーシイに貸した部屋が綺麗に片付いている

あ、あの！

き、昨日はご飯だけでなく泊めてまで頂いて有難うございました！

どうやら飯と宿のお礼にという事で部屋の掃除をしてくれたらしい。感知魔法で確認するが、掃除と称して彼女が盗みを働いた形跡は無い。

整理整頓だけではなく床なども綺麗に拭かれている

ホロ...

どうやら自分のスカートを使って拭いたらしい。スカートが昨日よりボロくなっている

正直昨日と同様にオロオロするだけだと思ってたから想定外だった。

それどころか数少ない財産である自分の服を使ってでも恩を返そうとする気高さに男として人として完全に惚れたこの娘に理想の女育成計画を施す事にする。

まず、掃除してくれた事とそのクオリティを褒め、そこを切り口に住み込みでメイドにならないか提案

ぜ、是非やらせて下さい！御主人様！

即答でOKしてくれたので働いてもらう。

スーシイを雇ってから1ヶ月後…

ふう：食った食った

スーシイはすっかり家の事をこなした。料理も俺の好みを俺の反応から学んでいるのか日を追うごとに美味くなっていく。この時点で既に溺愛したいが、我慢して褒める所はしっかり褒める程度に留める。

あ、有難うございます

スーシイの作ったご飯マジで最高雇って良かった

ここで絶対に下心を出して距離を詰めようとしてはいけない。ましてやセックス強要なんて絶対駄目だ

スーシイは応じてくれるかもしれないが、それは働き口を失いたくないからでスーシイの心は逆に離れていくだろう。俺はスーシイの身も心も欲しいのでその為にはじっくりとした信頼関係を最初に構築しなければならぬ。なので今は良好な雇用者と被雇用者の関係を維持し、時間経過でしか得られない信用を稼いでいく。

それにしても…

ぷるん

育ち盛りなので食べ食べと飯をしっかりと食べさせ続けた結果、スーシイは凄く成長した(主に胸が)

(うおおお…白い肌に色素の薄い乳首…完全に芸術品レベル…)

元々しっかりした性格でお姉ちゃん気質というかママ味を感じるタイプだったのに更に胸に強力な母性を宿し始めた。

ふる…♡

間違ってもスーシイを襲わないよう魔法でスーシイが体を拭いているのを覗き見して、スーシイでシコって賢者る日々が続いた

(こっちもキレイなぶにぶにおまん…！)

(しっかり処女膜がありますなあ…)

(ぐめめ…！今すぐスーシイの部屋に行つて俺のモノにしたい…！けど我慢だ！)

そんなこんなでスーシイが来て半年。すっかりお互いの信頼関係が構築できたので、そろそろ距離を縮めて行きたい所

ぷんぷん♡

ぷんぷん

そんな事を考えていたある日、  
犬が庭に迷い込む。野良っぽいが  
人懐っこいので飼われてる犬が  
産んだ子犬かな？



どうやらスーシイは犬好きらしく、  
いつもなら自分からワガママは  
絶対言わない彼女が  
今回だけはおねだりをしてきた。



あ、あの…世話は全部  
私がしますわ…!

俺はわざと少し悩むフリをする。  
スーシイは不安そうな顔をしている



その後快く  
受け入れてやる



いいよ!



スーシイは大喜び。

あ、有難うございます  
御主人様!!



スーシイの犬なんだから  
名前はスーシイが付けて  
やるんだぞと言うと、  
「はい」ととても  
元気な声で返事をする。

スーシイは犬に「ポニ」という  
名前をつけた。  
ある日突然ポニッと出てきた  
かららしい。犬が来てから  
事あるごとに可愛がっている

これは俺にとって幸運だった。  
スーシイは責任感がとても  
強いからか、ワガママを本当に  
言わない。  
勿論それは彼女の  
美点なのだが

逆に言う隙が無いという事で、  
距離を詰めようにもきっかけが  
中々無かったのだ。

しかしポニのお陰で  
その突破口が開いた  
今後はポニの散歩と一緒にする  
事で自然とスーシイとの  
距離を縮めていくことが  
出来る。

実際、一緒にポニの散歩をするように  
なってからスーシイとの距離はどんどん  
縮まっていった。

お陰でスーシイと冗談を言い合ったり  
本音で話せるような関係に進む事が出来た。

スーシイ俺の奥さんに  
なってくれない?



もう、そうやって冗談ばかり…  
仕方のない御主人様です  
あまりしつこいと  
本気にしますよ?

更に数ヶ月経ち、スーシイの俺に  
対する悪い意味での硬さのような  
モノは完全に消えた。

そしてある日、スーシィから街の孤児の  
為に建てた孤児院について質問された

今日街の孤児達  
から聞きました

御主人様は稼いだお金で  
身寄りのない子供達を  
助けたりしているのですかね？

どうも街の孤児達から  
俺の噂を聞いたらしい

まあ贅沢とかに使うよりそっちの  
ほうがいい使い方だろ？

はい！ とても立派な  
心がけだと思います！

だから私の事も  
あの時救って下さった  
のですね♡

スーシィは結婚して  
ほしくて声かけたんだよ

ふふ、それでは私は  
御主人様と結婚しなくては  
なりませんね♡

いやホントに

あら、私も本気ですよ？♡  
優しくて尊敬出来る大好きな  
御主人様です♡

チートのお陰で金が余ってたしワンチャン  
孤児達から理想の女を育てられるかな？  
と思って色々寄付したりしていたのが  
上手い方向に転がったみたいだ。  
この事でスーシィは俺の事をかなり  
尊敬するようになった

もはや恋愛のパラメータがあったら  
MAX付近までスーシィの好感度は  
稼いだといえる状況になった。  
そろそろスーシィを自分の女にするための  
最終段階に入る。

スーシィを連れて、王家から何度もお呼びが  
かかっていたパーティに出席することにする。  
チート持ちの俺をこの国に繋ぎ止めた  
王家が俺とこの国の貴族を結婚させたくて  
俺に女を見繕わせるパーティなのだ…

そのパーティが終わり、帰宅した後の  
スーシィさんの表情がこちらです

あせ…

御主人様…本当にあの  
女性たちの中から結婚相手を  
決めるのですか…？

スーシィは不満？

〇〇

メイドの分際で意見して  
申し訳御座いません、ですが  
賛成出来ません

彼女たちの言葉や  
動作からは御主人様を軽んじる  
ようなモノを感じます  
あの方達と結婚しても  
御主人様が幸せになれるとは  
とても思えません！

そりゃそうだ。俺は一部の貴族たちの  
猛反対で未だに爵位が貰えず平民だし。  
むしろ王家から要請があったとはいえ  
この国の貴族の質を考えれば平民相手に  
まともに会話が成立するだけでも  
頑張ってる方だろう。

彼女たちというかこの国の貴族は  
自分が幸せになる事は常に考えて  
いるかもしれないが、相手を幸せにする  
なんて事は恐らく人生で一度も  
考えたことが無いと思う。  
根本的にスーシィとは人間の質が違う。  
俺がこの国の貴族と結婚したくない  
一番の理由でもある。

まあ俺の価値なんて神様から  
貰った能力ぐらいなものだし…  
ああいう女が俺にはお似合い！

違います！

御主人様は私を  
助けて下さいました！

私に幸せと居場所を  
下さいました！

私は御主人様を  
心から尊敬しています！

スーシィ…

…人を幸せにした人は  
その人も幸せにならないと  
いけないと思います…

ですが、先程も申し上げましたが  
あの方達と結婚しても御主人様が  
幸せになれるとは思えません！

あの方達には御主人様を  
幸せにしたいという気持ち  
無いからです！

でも私は御主人様から幸せを  
たくさん頂きました！

私には一生をかけてでも  
御主人様に幸せをお返し  
する理由があります！

はっ

も、もし…もし結婚というのが  
お互いに相手を思いやって幸せに  
なる為の関係だとするなら…

あ、あの方達より私のほうが  
御主人様に  
相應しいと思います！



御主人様の冗談のせいで  
いつの頃からか私は貴方の妻になる  
未来しか想像できていません

しゅる...

御主人様はよく私に  
結婚したいとか  
妻になって欲しいと冗談  
を仰って下さいましたね...  
そ、その責任を取って下さい...



私の幸せの場所に、御主人様の  
幸せを望んでいない人達に入っ  
てきてほしくありません...

わ、私は御主人様を  
あ、愛しています...  
御主人様とポーンと  
ずっと幸せに暮らして  
いきたいです...



貴方の幸せと共に  
ずっと貴方のお傍にいます...

ス...



私を娶って下さい  
御主人様...

トッ...



貴方の妻として...



御主人様はただ  
お楽しみ下さい...

くちゅ...

あ、あの...  
私が全てやりますから...

好感度MAXの状態、あの残念な  
女達と俺が結婚するかもしれない  
状況を見せたらスーシイが  
何か反応してくれるかな？と  
思ってたがスーシイは  
まさに俺の望む完璧な反応をしてくれた。  
俺はスーシイを抱きしめ妻に娶る  
事を伝え、優しくお姫様だっこ  
をしてスーシイを寝室に連れていく



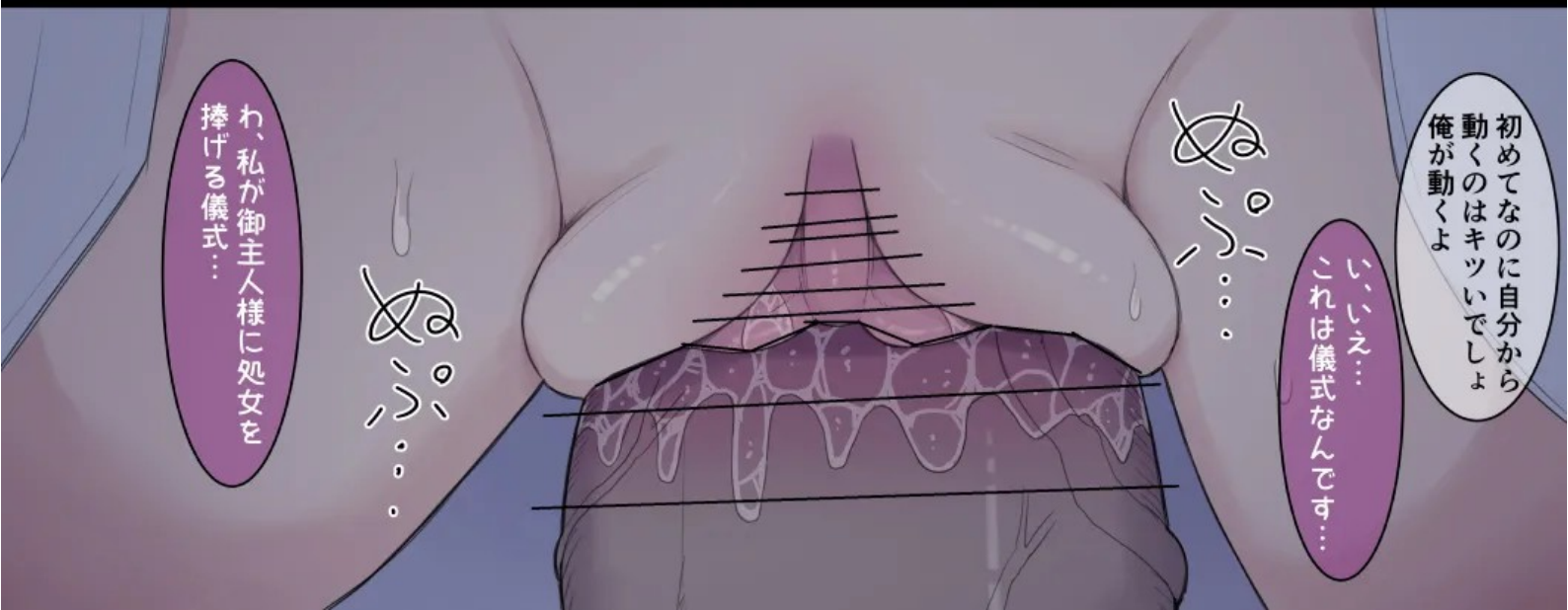
ベッドについてからスーシイは私にやらせて下さいと言って、俺の上に跨った。



御主人様に  
いっばい楽しんで  
頂きたいのに...  
妻の役割を  
全う出来ず本当に  
申し訳ありません...

も、申し訳ありません  
御主人様...!  
御主人様が大きすぎて  
私の体では入り切らない  
みたいですよ...!

スーシイの膣  
凄く気持ちいいから  
全然大丈夫だよ



わ、私が御主人様に処女を捧げる儀式...

初めてなのに自分から動くのはキツイでしょ  
俺が動くよ  
いいえ...  
これは儀式なんです...

ぬぶ...  
ぬぶ...



御主人様…貴方に  
永遠の愛を誓います

も、もし御主人様も  
私に永遠の愛を誓って  
下さるのなら…

私の処女を  
受け取って下さい…

スーシイ…

ニッコ…



確かに受け取った…  
絶対スーシイの事幸せに  
するからな

ふふ…私は既に幸せで  
いっぱいですよ…♡

むに…♡

これからは私が御主人様に  
幸せを返す番です♡

私に出来ることならどんな事でも  
叶えて差し上げます…♡



マジか…エロい事も  
お願いしていい？

はい♡いっぱい  
お願いして下さい…♡  
全て受け入れます…  
私だけの御主人様…♡

ぬふ…♡      ぬふ…♡  
ぬふ…♡

つ、ついにスーシイからスーシイと  
エロい事いっぱいしていい許可が…！  
エロなくても既にスーシイいと色々  
無理なのに、これから更にエロい事も  
スーシイに甘えていいとかマジでたまらん  
とりあえず今日からベッドは  
一緒に使って毎日スーシイの頭  
撫でながら寝よう

ここまで本当に長かった。  
これでようやくスーシイを遠慮無く  
死ぬほど溺愛出来る！

計画を練ってた時の想定より  
2億倍ぐらい愛しいぜ俺の妻…  
マジで世界で一番幸せにするからな…  
覚悟しろよマジで…

とか考えていたら  
もうイキそうになる

スーシイ…  
もうイキそう…

ぬふ…♡

ぬふ…♡

奥に…一番  
奥に下さい…♡

心だけでなく…  
この体も貴方の  
モノにして下さい…♡

スーシイのゆっくりした腰のリズムに  
誘われ、望み通りスーシイの一番奥で  
射精する。スーシイ好き過ぎて2分ぐらい  
ずっと金玉から精液がスーシイに  
ドクンドクンと送られてゆくのを感した

その後、チンポ抜きたく  
なかったので眠るまでずっと  
スーシイと繋がったままで  
今までを取り戻す勢いで  
ひたすらキスしまくった

んっ…♡

んっ…♡

ドクン…

ドクン…

翌朝…

朝起きると、既にスーシイは着替えていた。  
いつもより元気そうだ。遠慮なくスーシイの  
頭を撫でた後、俺は計画の一番最後の手順を  
実行する事にする。

おはよう御座います  
御主人様♡

おはようスーシイ

…順番減茶苦茶だけど  
今日は結婚指輪買いに行こうか

は、はいっ！♡

は…♡

これからメイドとして妻として  
よろしくお願い致しますっ♡♡

これで俺の理想の女の子育成計画は終わり。  
次は理想の奥さん育成計画とでも  
いきますか